

長月 愛南文芸

みなみうわ俳句会

ひそやかに花終わりけり鴨足草
 荒梅雨や熱き珈琲入れようか
 梅雨茸の不意に顔出す散歩径
 木洩れ日の小さき宇宙苔の花
 玄関の精霊とんぼ我子なり
 箸置きも川瀬の石の夏料理
 川蟹の家に入りて独り言

御荘俳句会

水澄むや岩瀬くずるるちぎれ雲
 耳奥に雨をたしかむ秋の風
 悠然と古里を行く鹿の群
 見上ぐれば口開け放す通草かな
 散る萩や惜しむごとくに池の面
 名月や三味の音洩るる小料理屋
 檳榔子
 よく笑う梅雨あけを待ち孫と待つ
 それぞれに愁い抱えし夏薊

宮下 峰月

中川千代子

田口ひさ子

木村 智子

若林八重子

濱 初榮

竹村 勝利

加洲勢津子

尾崎 松恵

山本 金子

吉田 朝子
 山口 和子

道の辺の合歓にやさしさ貰いけり

水打ちて風起つ気配となりけり

打水の乾きし土に地図の跡

青すだち家系たどれば刀鍛冶

初生りは焼くと決めをり曲り茄子

霽晴れて海を見透かす合歓の花

打水に通夜提灯の灯をこぼす

西海俳句会

勤勉な家に生まれて昼寝かな

「夏鶯」

いい声で私励ます梅雨の朝

寝たきりの夫も散髪盆が来た

向日葵や初の曾孫と写真撮る

山里の落慶法要青田風

若林八重子

山口 董

三好ミキエ

吉田モミエ

若山 節子

濱野 康子

井上 論天

利根早智江

吉田 朝子

吉田 笑代

浜木チズエ

吉田 弘定

新くさの葉短歌会(はこべ)

今日までの長き年月を大過なく過ごせしも仏のご加護かと思う
 又会おうと約束すれどままならず胸にしまいでわかれをおしむ
 雨の中田の草を取る夫想い夕餉の支度に心込めおり
 石だたみ続くブルージュの古き街蹄ひびかせ馬車の行き交ふ

市川コマエ
 長田ハル子
 西崎 文恵
 前田 充

はじめまして。赤ちゃん。

7月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

7月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。